

姉妹都市の米国・ファーンデイル市へ訪問、123年の歴史があるパレードに参加  
南房総国際交流協会



南房総国際交流協会は、姉妹都市交流の一環として、長谷川博市議会議員を団長とする協会員7名が7月27日から米国ファーンデイル市を訪問し、交流を深めました。

今回の訪問は今年1月に来日したジョン・マチュラー市長からの招待を受けて、ファーンデイル市で最大のお祭りである「オールド・セトラーズ・ピクニック」に参加する形で実現しました。

お祭りのメインイベントであるパレードは、28日11時にファーンデイル市高校の駐車場をスタート。西部劇に出てくる幌馬車、カウボーイのグループをはじめ、高校生のブラスバンド部やチアダンス部などや、消防自動車なども参加するなど、100を超える団体が、それぞれ趣向を凝らした形で参加。メインストリートの1.5マイル（約2.5km）を行進しました。



お祭りに参加する人は、ファーンデイル市に何年住んでいるかを示す色違いのリボンを購入・着用。南房総市からの訪問団は姉妹都市交流が27年になることから、27年在住の白いリボンを着用、持参したお揃いの法被を着て7番目にスタート。現市長や前市長も一行に加わって、持参した三芳音頭や白浜音頭などにあわせて一緒に行進。沿道を埋めた市民と、日の丸の旗や手を振って交流を楽しみました。



また、訪問した7名全員が、ファーンデイル姉妹都市委員会のメンバーの方々の家にホームステイし、米国の家庭を体験することができました。パレードのほかに、地元の名山「Mt.Baker」をハイキング。7月末でも残雪があってその上を歩いたり写真を撮ったりして、ピクニックランチを満喫しました。



周辺の街や施設の視察も実施し、帰路に立ち寄ったバンクーバーでは日系人の移民の方々の歴史が残る施設や博物館などを訪れて歴史を学ぶとともに、バンクーバー在住の日本人との交流も行い有意義な意見交換ができ、無事帰国の途につきました。